

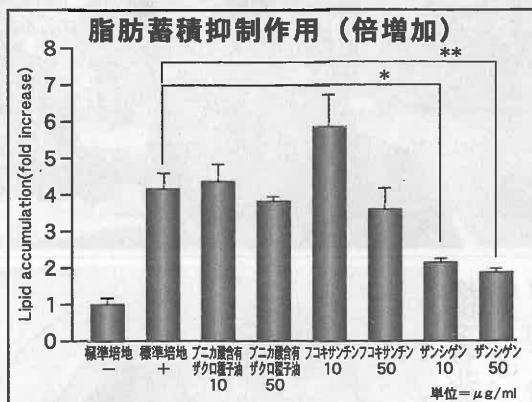
製造元ら作用機序検証

サーチユイーン発現も示唆

(株)ディーエストレイディング(東京都中央区)が取り扱うフコキサンチン原料「ザンシゲン」の抗肥満作用について、このほど最新の研究論文が学術誌「アグリカルチュラル・アンド・フード・ケミストリー」で発表された。脂肪細胞に直接働きかけて脂肪組織の形成を抑制するほか、脂肪組織内でサーチユイーン遺伝子(SIRT1)を発現させることが示唆されたとしている。

「ザンシゲン」は、フコキサンチン含有ワカメ抽出物と、プニカ酸含有ザクロ種子油の複合原料。2010年には、151名の閉経前女性を対象にした二重盲検試験の結果、約5kgの体重減少をはじめ、肝機能改善、消費エネルギー増加が認められたとする論文が、学術誌「ダイアベトス・オブ・シティアンド・メタボリズム」で発表されていた。

今回の研究は、その作用メカニ



ズムを検証するため、*in vitro*試験で実施されたものの試験の結果、脂肪細胞内の脂肪蓄積を用意依

存的に阻害の脂肪組織の形成にかかわるタンパク質の発現が減少し成熟脂肪細胞内でのサーチユイーン遺伝子の発現も示唆が確認された。そのため「ザンシゲン」は、脂肪細胞が成熟脂肪細胞に変形するのを抑制するとともに、脂肪組織の形成を抑制することで、先の臨床試験で確認された体重減少や肝機能改善をもたらす可能性があるという。

協同乳業(東京都中央区)の松本光晴主任研究員らは、研究により、腸内常在菌の活動と関わりのある約120種類の成分を検出することに成功した。この結果は、学術誌「Nature」の姉妹誌であるサイエンス・ティフィック・リポーツ電子版に25日公開されている。

同研究は、腸内常在菌よりも、同菌が産生する代謝産物の方が、血中にも移行するため直接的に健康に与えている可能性が高いという考えから、代謝産物の全貌を明らかにする目的で実施した。大腸内容物のメタボローム解析を行った結果、腸内常在菌が産生する物質、吸収する物質、影響を与えない物質などが検出された。

具体的には多くの生理活性アミン(GABA、ポリアミンの一種であるブトレッシンなど)は、腸内常在菌により産生されることが確認された。

袋井工場が経産大臣表彰
大塚製薬
大塚製薬(東京都港区)は1日、製造している同社袋井工場が「平成23年緑化優良工場等経済産業大臣表彰」を受賞したと発表した。同表彰は工場内の環境の整備、向上に顕著な功績があった工場を、都道府県知事などの推薦により、経済産業省が表彰する。同工場は11万1407平方メートルの敷地の約36.6%が緑という高い緑地率を誇る。芝生の管理には薬剤をできるだけ使わず、従業員自らが定期的な除草を行うなど、環境に配慮した緑地の維持管理に努めている。さらに、年間約1万人への啓発を行っている。同工場では「ポカリスエット」や「アミノバリュー」など、ニュートラシューティカルズ製品の生産を行っている。

協同乳業 腸内常在菌との関連成分検出

健康に与えていることなども確認されている。

袋井工場が経産大臣表彰
大塚製薬
大塚製薬(東京都港区)は1日、製造している同社袋井工場が「平成23年緑化優良工場等経済産業大臣表彰」を受賞したと発表した。同表彰は工場内の環境の整備、向上に顕著な功績があった工場を、都道府県知事などの推薦により、経済産業省が表彰する。同工場は11万1407平方メートルの敷地の約36.6%が緑という高い緑地率を誇る。芝生の管理には薬剤をできるだけ使わず、従業員自らが定期的な除草を行うなど、環境に配慮した緑地の維持管理に努めている。さらに、年間約1万人への啓発を行っている。同工場では「ポカリスエット」や「アミノバリュー」など、ニュートラシューティカルズ製品の生産を行っている。

この研究は、台湾・国立高雄海洋科技大学、米国・ラトガース大学のほかに、同素材の製造元のスベイン・ポリナート社および販売元の米国・PLトーマス社の研究チームが実施したもの。

研究チームのうち、ポリナート社とPL社双方の取締役を務めるブラディミール・バドマエフ氏(医学博士)は、今回の研究成果について機能的食品専門メディア「ニュートラ・イングリディエンツ」(米国版)にこうコメントしている。「最も興味深いのは、成熟脂肪細胞内でのSIRT1遺伝子の発現である」。

現代書林、神奈川新聞を提訴
現代書林(東京都新宿区)は、(株)神奈川新聞社を相手に2458万円(株)神奈川新聞社を相手に2458万円の損害賠償と、謝罪広告を求める民事訴訟を東京地裁に提訴した。提訴日は1月25日。

同社が健康食品販売会社と共謀して「バイブル本」を出版したなどと疑われた薬事法違反事件(公判中)に絡み、神奈川新聞は神奈川県警からの情報を鵜呑みにし、裏付け取材することなく虚

の研究成果について機能的食品専門メディア「ニュートラ・イングリディエンツ」(米国版)にこうコメントしている。「最も興味深いのは、成熟脂肪細胞内でのSIRT1遺伝子の発現である」。

SIRT1は、カロリー摂取制限により発現するとされる遺伝子で、別名「長寿遺伝子」。その発現作用は、ブドウ

トロールの機能性として知られる。

偽の事実をそのまま報道したことで、同社に回復困難な損害を与えたとしている。同新聞は、昨年10月7日付朝刊社社会面で、問題とされた書籍の内容について、「ほぼどっち上げ」などと大きく報じていた。

同社では、当該書籍について「体験談、証言などは、すべて取材に基づいたものだと主張している」。

CRO子会社2社を合併
シミックHD
医薬品CRO(開発業務受託機関)事業などを